



from MURONE 室根

防災会員らがバケツリレーで消火訓練を行った文化財防火デー

「いざ」という時のために

建高寺で文化財防火訓練

文化財防火デーに伴う火災防御訓練は1月27日、市内3カ所で行われました。そのうち室根町の建高寺では北側の山林から出火し、同寺に延焼の恐れがあるという想定で訓練を実施。厳寒の中、第12区自治会防災会員、市消防団室根第2分団員、室根町婦人消防協力隊員ら約80人が参加しました。

訓練では、タンク車をはじめ消防車8台が出動。中継送水やジェットシューターでの放水、防災会員と婦人消防協力隊員によるバケツリレーの放水などが行われ、いざという時のために備えました。

from DAITO 大東



上／走り終えた参加者は円陣を組んで「納め水」を浴びせかけられます
左／まんじゅう笠と振り袖をまとった加勢人と呼ばれる子どもたち

清め水浴びて通りを疾走

大原水かけ祭り350年祭

「天下の奇祭」として知られる一関市・大東大原水かけ祭りは2月11日、大原地内で盛大に催されました。今年で350年を迎えるこの祭りは、江戸の大火で江戸城天守閣が焼失した1657年正月18日を厄日と定め、火防祈願として始まったと伝えられています。現在は、厄年を迎えた人の厄落としをはじめ、1年間の無病息災と大願成就の祈願も込められた、全国有数の祭りとなりました。

晴天に恵まれた当日、年祝者や加勢人と呼ばれるまんじゅう笠と振り袖衣装を身にまとった子どもたちが集まり、消防団や関係者とともに火防を祈念しました。その後、古くから地域に伝わる田植え踊りや仮装手踊りをはじめ、市消防団による迫力ある纏振りや鬼剣舞、太鼓といった民俗芸能がいたるところで披露され、訪れた観衆約3万5000人を魅了しました。

午後3時、祭りの最後を飾る「水かけ」が始まりました。今年は県内外から268人が参加し、「旗切り」と称する出発合図とともに、白い腹巻きにわらじ履きの裸男たちが約500mの区間を一齐に走りました。沿道には薄氷が張った大きな水槽が数多く準備され、目の前を裸男たちが通るとおけを持った沿道の人たちは、一齐に清め水を浴びせかけました。

奇声と歓声が交錯する中、参加者は最後まで走り切り、寒さで体を震えさせながらも満足そうな笑顔を見せていました。

ゲレンデにアートな空間

第24回雪まつりに8団体

第24回一関雪まつりは2月3日、まつるベスノールンで行われ、巖美地区を中心とした学校や地域の8団体、約400人が干支のネズミやアニメのキャラクターなど思い思いの雪像を作り上げました。

冬の雪を積極的に楽しもうと行われている同まつり。参加者は高さ約3mに積み上げられた雪をスコップで固めたり彫ったりして形を作り、最後にカラフルに着色して仕上げました。最高賞の芸術大賞には、真っ赤な顔の筋肉マンを表情豊かに制作した五串地区が輝きました。

from ICHINOSEKI 一関



高さ約3mの雪像に彩色したり枝で飾るなどして仕上げました



from KAWASAKI 川崎

狙いを定めて…ローンボールを体験する参加者

楽しみながら健康づくり

ニュースポーツ教室開催

健康促進やストレス解消を目的とした高齢者向けニュースポーツ教室は2月8日、22日の2回にわたり、川崎体育センターで催されました。

1回目の8日には約40人が参加。1時間半ほどグラウンドゴルフで汗を流した後、体育協会職員らの指導でユニカール、ローンボール、ダーツ、輪投げ、シャフルボードのニュースポーツ5種目を体験しました。会場内にはたちまちこつをつかんだ参加者の笑顔と歓声があふれ、チームごとに勝敗を競いながら楽しいひとときを過ごしました。

「グローバル化」から学ぶ

花泉高校で「ふるさと塾」

ふるさと花泉会が主催する「ふるさと塾」は2月8日、花泉高2年生を対象に同校で開催されました。同会会員で元清水建設取締役の貝山秀典さんが、長年にわたり海外プロジェクト経営を推進した立場から「建築業グローバル化の現状と課題」と題して講演。自身が携わった自動車英国工場建設プロジェクトについてスライドを使いながら説明し、「日本の企業活動の場が、国際化からグローバル化(地球的規模)に移行している」と広い視点で物事を考える重要性を訴えかけました。

国際社会に通用する人間像を熱く語る貝山さんに、生徒たちは進路の参考にと興味深く耳を傾けていました。



from HANAIZUMI 花泉

体験を基に世界情勢を語る貝山さん



from HIGASHIYAMA 東山

地域住民の憩いの場となった紅葉ヶ滝公園

住民パワーで憩いの空間

松川八景の公園など整備

松川1区地域おこし委員会(菅原傳介委員長)は、紅葉ヶ滝周辺に遊歩道や展望台、親水広場などを設け「紅葉ヶ滝公園」として整備しました。また、又競山に延長約130mの散策道を設け、サクラやツツジを植栽しました。

この事業は、松川八景と称されたこれらの地域資源を活用して住民の憩いの空間を創出しようと、地域の皆さんが地域おこし委員会を組織し、市の地域おこし事業を活用して取り組んだものです。昨年6月から延べ約700人の住民がボランティアで作業に当たりました。

今後は、住民のぎずなを深める拠点として活用されることが期待されています。

福をいっぱいひろったよ

千厩商工会青年部節分祭

千厩商工会青年部(及川淳部長、部員39人)主催の節分祭は2月3日、松沢神社で行われました。約500人の市民や家族連れが境内に集まり、豆まきなどがぎやかに繰り広げられました。

かみしもを身にまとった厄年の青年部員6人は「福は内、鬼は外」と威勢の良い掛け声とともに豆まき。景品が当たる富くじ付きの落花生やお菓子などがまかれ、訪れた参加者は両手を高く上げて福豆を競うように拾っていました。帰り際にはつきたてのきなこもちが振る舞われ、買い物袋いっぱい豆やお菓子を拾った参加者からは終始笑みがこぼれていました。



from SENMAYA 千厩

富くじ付き落花生やお菓子を求めて歓声を上げる参加者